

神奈川県公衆衛生学会誌 第66号編集にあたって

神奈川県公衆衛生学会 企画学術部会長
(神奈川県衛生研究所長) 高崎 智彦

2020年、未知なる感染症が世界を席卷し、世界各地で緊急事態宣言が出され、ヒトやモノの動きが制限されるなど、経済活動にも甚大な影響が及び、世界中の人々の生命財産が危機的状況にさらされている。神奈川県下においても、2020年2月に横浜港に寄港したダイヤモンド・プリンセス号の船内における新型コロナウイルス感染症への対応を皮切りに、医療崩壊を回避し人々の生命財産を守るべく、様々な取組が行われているところである。

当学会は、例年11月に学術集会を開催しているが、コロナ禍の状況を鑑み、今年度は会場での学術集会開催を中止することとした。中止に伴い、各種表彰や研究発表等は学会誌での誌上発表に代えることとした。

昨年度の学術集会(第65回)では、「感染症対策・広域連携～東京2020大会及びその後に向けて～」をテーマにシンポジウムを実施し、感染症発生リスクを生じやすい「マスクギャザリング(一定期間、限定された地域において、同一目的で集合した多人数が集まること)」の状況下にあるビックイベントでは、感染症の侵入・流出の両面の対策が必須であることや、感染症の蔓延はいつ起こってもおかしくないこと等について議論したところである。そしてまさに今、「いつ起こってもおかしくない」事態となり、「マスクギャザリング」状況下における感染症リスクをはじめ、昨年度議論した内容について世界中の人々が日常生活において身近に実感していると言っても過言ではない状況にある。

今年度の学会誌編纂にあたっては、人々の感染症への危機意識が急激に高まる中、公衆衛生学の知見、力が今まで以上に注目され、求められていることから、神奈川県下においてはどのように新たな感染症に立ち向かっているのか、それぞれの闘いを「記録する」ことを通じ、今後の感染症対策への知見にもなりうることを目的に、「新型コロナウイルス感染症」をテーマに学会誌を編集することとした。

この学会誌が、今後の神奈川県における感染症対策に寄与することを期待したい。